医様式１　　論文審査の要旨および担当者

（甲）

| | |
|---|---|
| 申請者領域・氏名 | 脳神経科学領域　精神・神経分子科学教育研究分野・冨田　哲 |
| 指導教授氏名 | 中村　和彦 |
| 論文審査担当者 | 主　査　　加藤　博之<br>副　査　　東海林幹夫、奥村　謙 |

（論文題目）Sex-specific effects of subjective memory complaints with respect to cognitive impairment or depressive symptoms
（認知機能低下及び抑うつ症状に対しての主観的物忘れの訴えにおける性差）

本研究は、主観的物忘れ（Subjective memory complains; SMC）の訴えと性差の関連について調査したものである。研究方法は、弘前大学医学部における岩木町プロジェクトに参加した60歳以上の男女で、物忘れの有無を調査した男性131名、女性256名を対象とした。さらにMini-Mental State Examination（MMSE）で認知機能を、Center for Epidemiologic Studies for Depression（CES-D）で抑うつ症状を評価した。多重ロジスティック回帰を用いてMMSE、CES-D、その他の因子のSMCへの影響を評価した。その結果、男女の平均年齢は、それぞれ68.8 ± 6.7歳、68.7 ± 6.1歳であり、以下男性群と女性群で、教育年数は、11.1±2.1年、10.5±1.9年、平均MMSEスコアは、28.0±2.1、28.6±1.8、平均CES-Dスコアは10.6±4.6、10.7±5.8であった。男性群において、女性群に比べ教育年数が有意に長かった。女性群において、男性群に比べMMSEスコアが有意に高かった。CES-Dスコアは男女間で有意な差が見られなかった。男性群では24例が、女性群では72例がSMCありと回答し、女性群で有意にSMC回答者率が高かった。全参加者を対象とした解析において、性別（$\beta=0.626$）およびCES-Dスコア（$\beta=0.084$）が有意にSMCに関連していた。性別により男女各群に分けた解析では、男性群において、MMSEスコア（$\beta=-0.284$）が有意にSMCに関連していた。女性群において、CES-Dスコア（$\beta=0.106$）が有意にSMCに関連していた。以上より、男性は客観的に自己の認知機能の低下を捉えた上でSMCを得る傾向があり、女性はSMCを重篤に捉えて抑うつ的となりやすいか、または抑うつ的となった結果SMCを得やすいという可能性が示唆された。本研究結果により、SMCが主訴である患者に対して、男性では実際の認知機能低下を、女性についてはうつ病の可能性を念頭に置く事が有益であると考えられた。

本研究は、SMCの有無は性別に影響され、男性においては実際の認知機能低下に関連し、女性においては抑うつ症状に関連するという性差を明らかにした初の研究である。今後の診療および臨床研究に大きく寄与する内容であり、学位授与に値すると思われる。

| | |
|---|---|
| 公表雑誌名 | Psychiatry and Clinical Neurosciences掲載予定 |